

起業の鉄人

連載 107

黄山美術社——陳建中社長

中国の美術催事を陰で支えて成長 古美術品の本国帰還事業にも貢献

悠久の大地・中国への旅行者が増えている。4000年の歴史に裏付けられた芸術文化、各地に点在する名所旧跡、食通をうならせる中華料理など、日本人がひかれるものが多いからだろう。その中国ブームに乗って美術、工芸品の売買で経営を軌道に乗せた中国企業がある。陳建中社長率

工芸品です。仏像は1体1万円台が中心です。白檀作りでは数十万円クラスのものも売られています。そのほか、掛け軸、ヒスイなどアクセサリ、水晶玉なども人気商品です。全体に、年々高額なものが売られています」

販売員に専門知識を教育
顧客満足度を高める努力

いる黄山美術社だ。日本国内で開かれる美術展の記念品販売や企画・運営で実績をあげ、いまでは中国古美術品の本国への帰還事業も手がけているほど。陳社長は、美術関連のビジネスで中国に貢献したいと東奔西走の毎日だ。

黄山美術社の事業内容は2分野ある。中国関係の美術展や博覧会などでの記念美術品の販売と、中国文化を紹介する美術展などの企画・運営サービスだ。このうち記念品販売は、昨年1年間だけで全国30カ所以上で営業した。どのような記念美術品が売れているのか聞くと、

「いま人気が高い商品は木彫りの仏像や茶道具など陶芸、

実際、数年前に開かれた中国歴史王朝展では、秦の始皇帝陵で発見された有名な兵馬俑の实物大レプリカ（80万円）まで売れたという。美術館の記念品コーナーには高額なものも売れているわけだが、それには陳社長の工夫もある。



ちん・けんちゅう 1956年中国安徽省生まれ。91年に来日し、97年に城西大経営学部を卒業。98年に創業し、02年に黄山美術社を設立、社長に就任した。06年に中国和平友好発展基金会から「和平発展貢献賞」を受賞した。

「来場者の中には記念のお土産というより、雄大な中国文化を求める人もいます。もちろん本物の古美術品は販売できませんが、中国の『現代の匠』が作った品質の高いものを輸入しているのです。また、現場の販売員にも中国古代の歴史や美術工芸の知識を教育して、顧客満足度を高めるよう努力しています」

「企業は、起業」という方募集中!

新たな発想と技術を最大の資本として明日の発展を目指すベンチャービジネスを、毎日新聞ならではの情報と機能でバックアップ。

●企業の独自性を多彩なメディアで発信。

毎日起業家クラブ

MAINICHI ENTREPRENEURS CLUB

お申込み・お問い合わせ先

毎日起業家クラブ事務局